

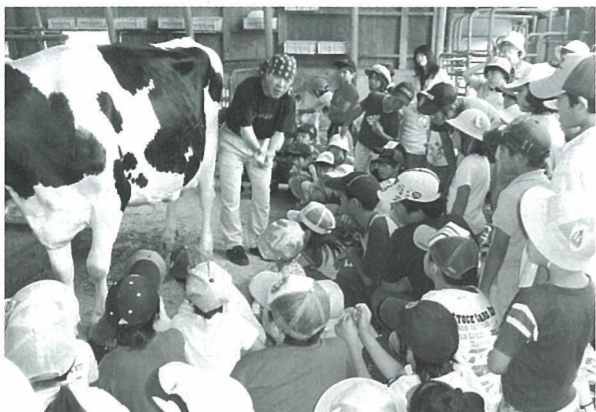
やまがた社会貢献 INTRODUCTION 基金を活用した助成事業のご紹介

協働助成事業(一般型)

1 子ども農山漁村交流のための山形ネットワーク

(1) 事業実施団体

NPO法人美しいやまがた森林活動支援センター



(2) 事業内容

小学生が農山漁村での生活・宿泊体験を行う「子ども農山漁村交流プロジェクト」で、それぞれの受入地において特徴ある活動が行えるよう、学校の授業とリンクできる多様なプログラムの検討や指導者層のネットワークを図っています。

実施団体より

三森 和裕さん

引き続き県や関係団体と連携し、指導を行う体験活動者同士の連携強化と充実、そして特徴的なプログラムを学校関係者などに積極的にアピールしていきたいと思っています。



国際大学学長 森 正勝さん
(アクセンチュア株式会社最高顧問)



揺れ動く世界情勢の中で、地域社会が原点でありそこに住む市民生活の品質・品格が問われています。

やまがた社会貢献活動のお話をお伺いし、その趣旨にとっても賛同し、ささやかな献金で参加させていただくことにしました。本来、山形に生まれ育まれた人間として自ら汗を流して参加すべきと思いますが、東京に住み仕事でも現役であることで免じていただきたいと思います。活動に直接参加されております皆様に声援を送るとともに敬意と感謝の意を表したいと思います。元気で温かい山形を創り上げられますように心よりお祈り申し上げます。

～県担当者から一言～

県では「子ども農山漁村交流プロジェクト推進協議会」を立ち上げ、宿泊、体験プログラム、指導者、安全対策等、各地域での受入れに係る体制整備を支援しております。

この事業により、指導者層のネットワーク化や体験プログラムの充実が図られ、各地域の受入協議会への側面支援体制が充実することを期待しています。

(農林水産部 新農業推進課)

2 藻場造成活動への理解促進と水産生物の育成

(1) 事業実施団体

NPO法人みなと研究会

(2) 事業内容

県北部沿岸域は、砂地が多いため藻場の形成が少なく、磯焼け現象も広まり浅場の魚介類が減少しています。藻場は魚介類の産卵場所、幼稚魚の生育場所として、水産資源の保護、培養に重要な役割を果たすことから、県水産試験場、漁業者と協力し、母藻の設置、岩盤清掃などを行い、海洋資源を次世代に引き継ぐ活動を行っています。



実施団体より

守屋 元志さん

藻場造成は本来漁業者の活動ですが、その漁業者と藻場造成のノウハウを持つ私たちNPOと県が協働することで、「ハタハタの稚魚、魚介類が多く集まる海域にする」という目標に大きく近づくことができると思っています。また、同様に困っている地域の参考となるよう、今回の成果をまとめ、整理したいと考えております。

～県担当者から一言～

これまでみなと研究会と協働してハタハタの資源保護活動や藻場造成事業を実施してきた中で、保護活動を地域に定着させるためには、漁業者だけでなく、地域住民や未来を担う子どもたちも参加することの必要性を感じました。

今後も、地元に根ざした幅広いネットワークを持つNPOと専門的な情報・技術を持っている県が協働することによって保護活動の輪が広がることを期待します。(庄内総合支庁 水産課)

団体支援助成事業

1 福祉マップ作成事業

(1) 事業実施団体

NPO法人あらた(酒田市)

(2) 事業内容

様々な人たちがお互いに歩み寄り、思いやり、ふれあうことができる福祉のまちづくりを進めています。その活動の一環として、県内全市町村へのアンケート調査及び長井市との協働による現地調査を行い、主要施設のバリアフリー対応状況をまとめました。

この成果は「山形県福祉マップ」として作成し、高齢者、障がい者の方の外出時や、乳幼児連れの際などに活用できるように配布しています。



◇このほかの助成事業

- 新庄城址マップ作成事業
- 新人ガイド育成と従来のガイド再育成事業
／NPO新庄観光ガイド協議会(新庄市)
【寄付者】五十嵐歯科医院、匿名企業
- 交通安全推進事業
／NPO法人山形県自動車公益センター(山形市)
【寄付者】山形トヨタ自動車株式会社



伊賀 武さん



長年のボランティア活動の中で、健全者と障がいをもっている方が共存できる社会・福祉制度が必要と思い、福祉分野で長年活動し、活動内容に共感を持ったNPO法人「あらた」に寄付させていただきました。福祉活動への支援のひとつの方法として、自らの寄付により基金制度をPRし、広く賛同したい方を募ることにより、市民の目線で、微力を尽くしたいと思っています。

太田 美佐子さん



私は現在、就労支援に携わっており、福祉活動に役立てていただきたく、普段からお世話になっているNPO法人「あらた」を、社会貢献基金を通じて応援させていただきます。「あらた」の行事・研修会等に、地域の皆様、障がい者の皆様に広くご参加いただくことで、今後も仲良く・楽しく生活を送れたらと心から願っています。

トピック

「未来に広がる新たな地域社会づくり」へ多様な連携を ～NPO活動推進フォーラムやまがた大会～



川北秀人さん

11月10日、11日の両日、山形テルサ(山形市)を主会場に「NPO活動推進フォーラムやまがた大会」が開催されました。大会には、北は北海道から南は鹿児島まで、県内外から532名の参加者が集まりました。

この大会は平成16年に千葉県で第1回大会が開催され、本県が第6回の開催となる全国大会です。準備にあたっては、千葉県、山形市など4県6市町、県内外のNPO法人6団体、そして今回は初めて大学(東北公益文科大学)の参画を得て、大会名称を変更(「NPO活動推進自治体フォーラム」から自治体を削除)し、多様な主体の協働による開催となりました。

また、本県が「やまがた社会貢献基金」を設置し、企業の地域社会への「想い」をNPO活動につなぐ取り組みを行っていることを踏まえ、「企業の社会貢献」を新たなテーマとして取りあげました。

大会初日の基調講演では、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者の川北秀人さんを講師にお迎

えし、「企業・自治体とNPOとの協働は、どう進んだか、どう進めるか」と題しご講演をいただきました。続くパネルディスカッションでは、「多様な主体の連携による地域活性化の方策」をテーマに、パナソニック株式会社で社会貢献活動を担当されている小川理子さんをはじめ、NPO、大学、行政の方々より、それぞれのお立場からのご意見をいただきました。

2日目は、「企業と行政、NPOとのパートナーシップ」など多様な主体の連携に関する5つのテーマで分科会を行い、その議論の内容をクロージングセッションにおいてとりまとめ、2日間の日程に幕を降ろしました。参加者アンケートでは、「協働の考え方の整理ができた」、「これからの活動のヒントが得られた」など、好評をいただきました。

※平成22年度は出雲の国「島根県」で開催される予定です。



5つの分科会では熱い議論が交わされた